

国

語

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)
制限時間五〇分 六十点満点

実物は版が大きいので、編集の都合上A4サイズに分割してあります。(ご了承下さい)

〔解答に字数制限がある場合には、記号や句読点も字数に数えなさい。〕

一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

人が宗教に惹きつけられるのには、ふたつの大きな理由があると思います。ひとつは「不安」で、もうひとつは「欲望」です。こうした人間ならではの感情が、宗教を生み出したといってもいいでしょう。

① 人が何より不安に思うのは「死」についてでしょう。「死ぬのなんか、怖くないし、不安でもないよ」という人もいるかもしれませんが、大方の人にとって「死」は不安だし、怖いものであるはず**です**。自分の死だけではなく、肉親や愛する人の死も不安だし、そうした死に接すれば、悲しみに包まれることにもなります。

唐突かもしれませんが、犬の世界に宗教はありませんよね。「何を当たり前のことを」と思ったことでしょうか。ただ、犬にも感情があります。私は犬を飼っているのです、その点、よく分かりますが、犬の感情はたいへん豊か**です**。「A」の情が発達しているのです。

喜怒哀楽

うれしいときには、しっぽを存分に振って、喜びを爆発させます。気に入らない犬や怪しい人を見かけたときには、思いきり吠えて、怒りや不安を表現します。さびしいときや悲しいときには、シユンとなって、シヨンボリします。安心した心持ちの時には、のんびりだらんと、リラックスしてくつろいでいます。

このように犬にも不安はあるはずなのに、宗教は生み出していません。これはやはり、**ある一定の知性や自意識がないからなのでしょう**。当たり前といえれば当たり前ではありませんが、**逆に言うと**、地球上で知性や自意識を持つ存在は稀有**です**。人間は、知性や自意識を持つているために宗教を生み出したともいえる**のです**。

犬などほかの動物にはなく、人間だけにあるものとは何でしょうか。たくさんありますが、そのひとつに「先のことを考えすぎる」、あるいは「先のことがかかる」ことが挙げられます。さらには「過去のことを覚えすぎている」ことも挙げられるでしょう。

先のことを考えると不安になる。過去を振り返ると、悔やんだり、恨んだりして、心が乱れる。未来や過去に心を奪われて、今が奪われていく。そうしたことが、人間にはしばしば起こります。宗教は、人間のこの特性「**グツと入り込んできました**」。

とりわけ死の恐怖。死ぬのは怖い、恐ろしい。この不安や恐怖に対して「来世がある」と言ってもらうことで、心はどこか安らぎます。あるいは「魂は死なない、永遠である」と言われると、救われる気がしてきます。これももし仮に、人間が不死の生物で、老いも病も知らず、年齢を重ねるごとにますます元気になっていくような存在ならば、宗教は生まれなかつたかもしれません。老いや病や死があり、悔いや恨みや怒りがあり、つらく悲しいことがあるからこそ、宗教は生まれたので**しょう**。

(中略)

② もうひとつの「欲望」についてはどうでしょうか。人間は脳が非常に発達しているためか、欲のスイッチが入ると、**抑制するものがなければ**、際限なくその欲のおもむくままに突き進む性質を持っています。

たとえばライオンは、目の前にシマウマがいても、満腹であれば、ほとんど襲わないといわれます。ところが人間は、「今は満腹だけど、明日や明後日はどうなるかわからないから、今のうちに狩りをしておこう」と考えがち**です**。現代でいえば、生活ができるくらいの貯蓄が十分にあっても、先々のことを考えると不安になって、もつともつとがめつく稼ごうとするようになります。不安が欲望を刺激し、欲望を大きくしている**のです**。

必要最低限の暮らしが十分にできているのに、**ミエ**などから欲望を肥大化させるケースもあります。買い物中毒やアルコール中毒などの中毒現象を起こして、欲望に歯止めをかけることができなくなる人もいます。

人のものまで欲しくなると、どうなるか。場合によっては、**盗むこともあります**。欲しいものを手にいれようと、持ち主を殺してしま**う**ことも、しばしば起きるわけ**です**。

歯止めがなければ、欲望はどこまでも大きくなっていきます。そうすると、周りは迷惑をこうむり、たまつたものではありません。誰もが穏やかに暮らすことは、できなくなる**でしょう**。

とすると、欲望に対しては、何らかの制約が求められるようになっていくはず**です**。私たち人間を動かす生命エネルギーは重要だけど、それが爆発するほどの動きをみせると、無軌道になってしま**う**。すると、右に書いたような**困った事態**も起きてしま**う**。そこで求められるようになったのが「スーパーエゴ」**です**。スーパーエゴはエゴ(自我)の上にあつて、上から指示命令する。社会全体でいえば、「B」であり、かつての家庭では、父親といったところでしょうか。ただし、「ナニナニすべき」あるいは「ナニナニすべからず」というような、上から指示命令する強い力であるスーパーエゴが行きすぎると、人々は禁欲的になりすぎて、いずればヒステリーとなって、爆発してしま**う**。これは、オーストリアの精神分析学者であるジークムント・フロイトがシテキしていることでもあります。

宗教にもスーパーエゴの側面があります。モーセ(モーゼ)が神から与えられたとされる十の戒律「十戒」には「殺してはならない」「盗んではならない」などと記されています。これらは「ナニナニすべからず」の典型**です**。十戒はユダヤ教などが聖典とする『旧約聖書』に書かれていますから、まさに宗教の教えといえます。

問一 線①・②のカタカナの語を漢字に直しなさい。
問二 線「稀有」は「けう」と読む。この語の意味を答えなさい。

① 見栄 ② 指摘
めつたはないこと。まれにあること
*くらべてわかるキリスト教 イスラーム 齋藤 孝 一部改変 題名テマツ

問三 「 ー 」 A・Bについてそれぞれ次の問いに答えなさい。

(1) Aに入る「人間の持つ様々な感情」を表す四字熟語を考えて漢字で答えなさい。

喜怒哀楽

(2) Bに入れるのに最も適当なものを次のア〜エの中から選~~ば~~記号で答えなさい。

- ア 支配と服従
- イ ~~法律や道徳~~
- ウ 命令と王制
- エ ~~風習や共感~~

消去法

問四 ……線 a〜dの単語の中で一つだけ他の三つと品詞が違うものがある。該当するものを選び、a〜dの記号で答えなさい。

問五 ー線 1「宗教は、人間のこの特性にグッと入り込んできました」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア〜エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 宗教家が、他人に頼るくせがある依存的な人の弱みにつけ込み、言うことを聞かせようとしたということ。
イ 怪しげな宗教が人々の心のすきに忍び込み、それぞれの人が自己の判断ができないようにさせたということ。
ウ 宗教家が数々の奇跡の話を宣伝してまわり、生き方に迷う人々をよい方向に導いたということ。

エ 宗教が、先見性や記憶力に優れる人間特有の悩みに適合した教えを与えてくれたということ。

問六 ー線 2「抑制するもの」とほぼ同じ意味を表す単語を三字で抜き出して答えなさい。 截止め

問七 ー線 3「困った事態」の具体的な内容を、本文中の語句を使って三十五字以内で説明しなさい。

人のものが欲しくなり、盗んだ人を殺してまゝ手に入れようとすること

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

ある日、若い侍が旅の途中で日が暮れてしまい、どうしようかと思っていたところ、古く荒れ果てた神社を見つけた。仕方がないのでここで一夜を明かそうと考えた侍は拜殿に上がり、柱にもたれかかって休もうとしていたが、冷たい秋風が吹き通り、壁にはクモの巣が張り、つる草が茂っていて、一層秋の夜の寂しさを感じていた。

やや宵もたけなほにして、四更の空とおぼしきころ、十九二十ばかりの女房、~~夜子~~をいできて忽然ときたる。「かかる人家も

真夜中になつて

午初二呼頃

とおきどころへ、女性として、夜更けて来べきにあらず。いかさまにも化生のものにこそ」とうしろめたく用心して侍らし

来るはずがない

に、女うちゑみて、~~い~~だきたる子に、~~い~~ねなるはちちにてましますぞ。行ていだからよ」とて、つきだす。この子するすると

くるに、かたなに手かけて、はたとはらめば、そのままかへりて母にとりつく。「大事なぞ、ゆけ」とてつきだす。かさねて

にらめばまたかへる。かくする事四五度にして、~~退屈~~やしけん、「いでさらば、みづからまいらん」とて、件の女房、~~ゑ~~しやく

ひまますに

飽きたのだからか

さあ、それならば

前ふれ

もなく来るを、臆せずもぬきうちちやうどきれば、「あ」といひて、かべをつたひ天井へあがる。明け行くしのめしらみわ

もなく

勢いよく切ると

夜明け方の空

たれば、壁にあらはなぬきをふみ、~~桁~~などつたひ、天井を見るに、爪さき長き事、二尺ばかりの上らう蜘蛛、かしらよりせな

〔御伽物語〕 一部改変

※ 1 四更(しごう) …… 午前二時頃。

2 孩子(がいし) …… 幼い子ども。

3 はたと …… きつぱりと。

4 件(くだん)の …… 例の。 5 ぬき …… 壁の中に横に通してある木材。

6 桁(けた) …… 家の柱を支える木材。

7 上らう蜘蛛 …… 女郎蜘蛛のこと。背中に鮮やかな模様がある。

問一 ー線「あらはな」を現代仮名づかいに改めなさい。 あらわな

問二 ー線 1「いかさまにも化生のものにこそ」はへいずれにしても化け物のたぐいだろう」という意味である。若い侍がこ

う思った理由を現代語で答えなさい。 こんな真夜中に人家もないさびしいところに女性か子どもも連れてやってきたから

問三 ー線 2「うしろめたく」、4「臆せずも」の意味として最も適当なものをそれぞれ次のア〜エの中からそれぞれ選

2「うしろめたく」

- ア 白い顔で慌て
- イ 人の後をついて行き
- ウ しみじみとした気持ちになり
- エ 気がかりで

4「臆せずも」

- ア ひるまずに
- イ ぐずぐずして
- ウ 怖がりながら
- エ 気を使いながら

問四 ー線 3「かくする事」は「こうすること」という意味である。「こうする」の具体的な内容を説明しなさい。

父と言われた人に近づいては逃い返されようと

問五 K君が本文の研究発表をしようとして、わかりやすくするために物語の挿絵を掲示しようとしたところ、他の作品の挿絵に紛れてしまった。あなたはこの本文の挿絵を探すことを手伝えることになった。本文の挿絵は次のア〜エの中のどれか。記号で答えなさい。



三

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

幸吉 美柄 大友 丹蔵

明治の初めの頃、政府は北海道の開拓を目指し、開拓団を募り、続々と開拓民を送り込んでいた。幸吉は東北地方から流れてきた若者で、美福という女性と知り合い、一緒に暮らしていた。幸吉は開拓団に加わり、開拓使長官の大友のもとで開拓に励んでいたが、明治政府の命令は一定せず、現場の開拓民たちは猫の目のように変わる政府方針に苦しめられていた。そのような中、大友に東京に戻るよう命令があり、大友のいなくなる北海道に自分の存在理由を見いだせない幸吉は、この地を去ることを決めた。以下の文章は、開拓団の先輩である丹蔵が、幸吉を引き留めようとしている場面である。

「丹蔵は構わず続けた。『札幌に農地を広げていくことと、本府、つまり、政の要を置くことでは、開拓の方針が、まるきり違ってくる』と云うことだ。本府の役所は、北海道ぜんぶを統括する要だべ。したら、他の地域と繋がる道路もいる、人が増えれば建物もいる、産業も起こさねばならぬ。店も、工場もいる。鉄道だって、引かねばならね。なんもかんも、ただ札幌に農村ば広げていくのとは、仕法が違うのよ」

「んだ、そらそうだ」
幸吉は雪の中にでき上がりつつあった本府を思い起こした。切り株が白い墓標のように見えた本府。まるで開拓地の墓場のような……。だが墓場は墓場のままではなく、新しい何かに生まれ変わろうとしていたのかもしれない。ふとそんな気がした。

「んだべ？新政府が札幌本府の建設を決めた時から、幕府時代から続く計画は、役に立たなくなつたのよ。残念だが、大友様の計画は、時代遅れになつてしまつた。……だから、大友様は、さとほろから去つたのですか」丹蔵が天を仰いだ。もう月も星も見えない。次第に色づいていく夏空に白い雲が浮かんでいた。雲の行方を目で追いつながら、丹蔵は言った。

「わしもなあ、幸吉。大友様に、しつこいくらいに頼んだのだ。今が札幌の正念場だ。一からやり直すつもりで、開拓使と折衝しながら、札幌を、北海道を、引っ張っていつてくれんか、そう頼んだのだ。きつい言葉も使つたさ、今辞めるのはいかにも酷い、いくら上と意見が合わぬとはいへ、無責任ではねえか……この間、おめえが大友様に食つてかかつたときのように、わしもずいぶん、ひでえことを言つた……大友様も、災難だ。わしに責められ、おめえにまで、罵られてなあ」

「そらだつたんですか」
丹蔵もまた、ただ黙つて手をつかねていたのではなかつたのだ。「結局大友様は、留まつては下さらなかつたがなあ、だども、幸吉、大友様には大友様のお考えがあつたのだぞ。大友様は、おっしゃつたでねが。わたしの仕事は終わったのだよ」と

「はい。おつしやいました。大友様の計画は反故になつてしまつたから……」

「そらではねえ」丹蔵は毅然と言つた。「大友様は、諦めて手を引いたのではねえぞ、幸吉。大友様は、大友様なりに、やりきつたのだぞ」
「そらだべか」

「開墾計画の話ではねえのだ。人の話だ」
「ひと……」幸吉には、わけがわからなかつた。

「大友様は、『確かに、わたしは無責任かもしれん。土地の開拓は道半ばで去ることになつた。だが、私は、人の開拓は、十分にやつたつもりなのだ』、そうおっしゃつた。幸吉、それはな、例えば、おめえのことさ」突然、鼻先に指を突きつけられ、幸吉はぎよつとした。

「お、おらのこと……」「んだ。おめえや、わしや、村の者たちのことだ。おらたちは、大友様からたくさんのことを、教わつたでねが。大友様が、二宮尊徳先生から、薫陶を受けたのと同じようにだ。二宮先生は亡くなつたが、その教えは、大友様やお弟子さんたちの中に生きている。おんなじだ。大友様が去つても、その教えは、わしらが受け継ぐ。それから、その後は、おめえたち若いもんが、ずっと受け継いでいくのだ」

「おらたちが……」「『わたしが去つても、村の者たちは、立派にやつていくだろう、いや、私よりも、よほどうまくやるかもしれぬ』、大友様は、そうおっしゃつて、笑つていたよ」
「そつたら何がありませんか」

「わしは、もうそれ以上、大友様を引きとめることはできなかつた。それでも、大友様に留まつてくれと頼めば、わしらのほうが、大友様の信頼を裏切るような気がしてな。確かに、大友様は、十分に働いてくださった。身をもって、多くのことを授けて下さつた。これ以上、求めるのは、わしらの我儘かもしれん……なあ、幸吉よ、開拓とは、土地を拓くんではねえ、人を拓くことなのかもしれんなあ」

丹蔵が農地へと目を馳せた。田畑に寄り添う用水の水面が、朝日にきらきらと輝いていた。

「幸吉よ、大友様は去っても、ここは、大友様の元はじめの村だ。大友様の残したものをこれからは、わしらが差配さばしていく。ただ守っていただくだけでは駄目だ。時勢に合わせて変えていく。ここが始まりだ、わしらのさとほろの、な」

丹蔵が確かめるように言葉を切った。そして続けた。

「役人ちゅうのは、役人の見方でしか物を見られん。殊に開拓使や中央政府の薩長の馬鹿まがうらどもは、土地のことなど、なんもわかつとらんで、机上の空論でものを言う。役人なんて、いつの時代もそんなもんだ。だから、わしら土地の者は、役人たちの間違いを、正してやらにやならん。御上は、人を使い捨てる。役人を使い捨てる。大友様も、島判官様も...y朝令暮改とは、このことだ。だども、わしらは、どこへも行かぬえ。この土地を耕し、この土地で生きて、この土地の墓に眠るのだ。役人どもの好きにはさせせん。御上のやり方に目を光らせていかねばならぬえ。新しい世界は、わしらの手でつくるのだ」

新しい世界...

『楡の墓』浮穴みみ 一部改変

※ 1 さとほろ...札幌のこと。 2 反故...役に立たないもの。無駄なもの。

3 二宮尊徳...江戸時代末期の農業研究家。勤勉の美德の象徴として有名。

4 薫陶...優れた徳で人を感化し、育て上げること。

5 そつだらこと...そんなこと。 6 差配...指図して、取り仕切ること。

7 薩長...薩摩と長州。明治政府成立期にはこの二つの藩の出身者が多く、政府の指導的立場にあった。

問一 線①③の漢字の読みを答えなさい。①しょうねん②かいこん③こと(12)

問二 線x・yの語句の意味として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 以前の命令を変えて人民をだますこと x
イ 朝言ったことと夕方言うことが一致していること
ウ 朝、集団が集まって夕方に解散すること x
エ 方針などが絶えず変わって定まらないこと

問三 線1「切り株が白い墓標のように見えた」とあるが、この時の幸吉の気持ちの説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「大友様」のもとで開拓に励んでいた幸吉であったが、政府の方針が変化し、札幌を農地にしてしまう決定がくだされ、札幌が北海道の中心都市として栄えることがなくなり、呆然としている。
イ 政府の決定により自分たちの苦労が水の泡になりそうなことに落胆していたが、丹蔵と話しているうちに新たな希望がわき上がり、明るい気持ちでここを離れ、次の仕事ができるかと確信している。
ウ 新政府の新しい決定により、農地として開拓を進めていた札幌が農地として活用されることがなくなり、幸吉たちが積み重ねてきた努力が無駄になると思い、無力感に襲われている。
エ 自分の考えた仕事内容ではなくなったことに失望し、自ら東京に帰ってしまった「大友様」のことを思うたびに、力を合わせて頑張った日々が思い出され、思い出を大切にしながら生きていこうと決意している。

問四 線2「わたしの仕事」とあるが、大友の言う「仕事」とは北海道の開拓と、もうひとつは何か。その内容を五字以内で抜き出さない。

問五 線3「おんなじだ」とはどのような点で同じなのか。その具体的内容を二十五字以内で答えなさい。

問六 線4「大友様の信頼を裏切る」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 無理矢理に仕つくく大友を留めようとするのは、大友の出世に響くことになり、結局大友のためにならないということ。
イ 大友を強く留めることは丹蔵たちが成長していないということになり、彼らの成長を信じる大友の考えに背くということ。
ウ 大友を引きとめることは、政府の役人の命令に背くことになり、それは結果的に大友の願いに叶っていないということ。
エ 政府の決定に逆らい大友を残すことは、日本国のためにはならず、国に尽くそうとする大友の意志に反するという事。

先生の教えが代々弟子に受け継がれていくこと

大友の計画
札幌を農地として開拓
↓
X
新政府は
札幌を本府にして
農地として
活用するつもり